

安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム推進座談会

○安全で安心な三重のまちづくりをめざし、平成29年1月に策定した「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム(H29年1月～H32年3月)」に基づき、県民と、事業者、警察、行政などさまざまな主体との「協創」による取組を一層効果的に促進するため、平成29年7月から、県内各地(18警察署単位)で座談会を開催。

座談会設置の背景・趣旨

○背景

県民に大きな不安を与える凶悪犯罪、子ども・女性が被害者となる性犯罪や特殊詐欺、サイバー犯罪など犯罪情勢の急激な変化に伴う新たな課題の発生や、伊勢志摩サミット後も、多くの人の来県が見込まれる中、防犯・交通安全を総合的に推進するため策定したアクションプログラム(H29.1策定)の地域への浸透を図る必要がある。

○趣旨

座談会では、アクションプログラムのPRのみならず、県民や事業者等に対するアクションの喚起、さらには先駆的なアクションの発掘等について、ダイバーシティ(多様性)の観点も踏まえた様々な主体が意見交換等を行い、これを契機に、新たなアクションや、ネットワークの構築が展開されるなど、県民力によってアクションプログラム自体を進化させていくことを大きなねらいとする。

座談会の概要

○主催

三重県(くらし・交通安全課)

○開催方法

県内を18ブロック(警察署単位)に分け、関係市町等と連携し順次開催。
(平成30年度末までに県内全域での開催を目標)

○参加者

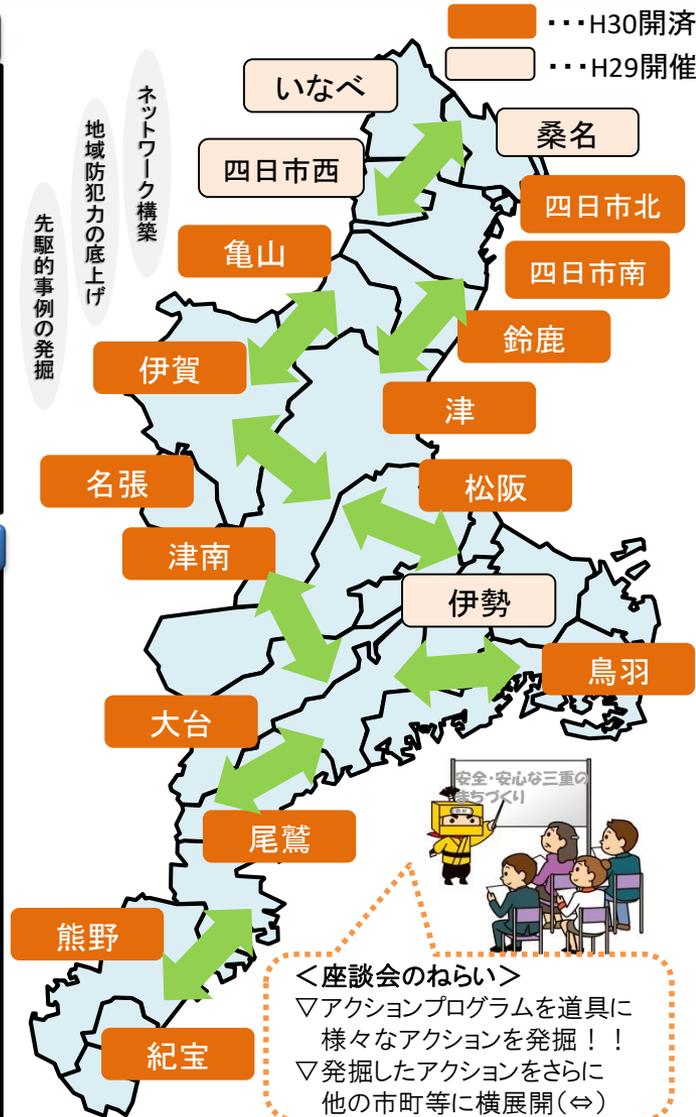
- ・市町(防犯・交通安全担当者)
- ・警察署(生活安全・交通担当者等)
- ・自主防犯活動団体等(県民・事業者)
- ・学校関係者
- ・その他関係者(女性・若者・外国人等)

○当日の内容(予定)

- 【第1部】アクションプログラムについて(県)/事例発表(各ブロック自主防犯団体等)
- 【第2部】グループワーク/各グループから発表



多様な主体による「協創」の実現



これまでの座談会で出された主な意見(まとめ)

情報共有・連携の強化

- 犯罪や交通事故に境界はなく、県や市町、地域を越えての情報共有やパトロール等での連携が必要
- 防犯ボランティアのマップ(どこでどの団体がどういう活動をしているのか)があれば連携等が図りやすい
- 自治会同士の横のつながり(連絡網等)や自治会と自主防犯団体の連携を図るべきである
- 企業や若者が地域の祭りに参加することを第一歩として、今後住民等とのネットワーク構築につなげていければ良い
- 下校時に子ども達を通る場所に拠点を作り、毎日、地域ぐるみ(当番制)で、子ども達の安否を確認する方法がある

地域の防犯・交通安全意識の向上

- 活動の様子を写したチラシ等を各戸配布し、一緒に活動を行いたいと思えるきっかけを作ってはどうか
- 若者の防犯意識向上や参加促進を図るため、強制ではなく若者が興味を引きやすいイベント等の工夫が必要
- 社用車で移動中にパトロールすることは、防犯だけでなく、従業員の交通安全意識の向上やマナーの徹底にもつながる
- 危険箇所の点検結果を学校関係者と共有し、問題点等を話し合い、今後のパトロールの改善に繋げる方法がある

高齢化に伴う対応

- 防犯マグネットを各戸に回覧し、マグネットが回ってきた家庭がパトロールを行うことで、負担も集中しない
- 自主防犯団体への若者の参加促進のため、定期的な交流会等の開催による仲間意識の醸成も有効
- 犬を散歩しながらのパトロール(わんわんパトロール)は高齢者にも負担が小さく比較的容易にできる
- 若者の参加促進だけでなく、中間層(40~60歳代前半)のリーダーの養成が必要

防犯活動等にかかる費用の問題

- 活動資金は、自治会からの援助を得ることや、独自に資源ゴミを集めて売却するなどの工夫が必要
- 自治会とつながりながら、全世帯から一律会費を徴収するやり方で活動資金を確保するのが望ましい。

その他

- 防犯灯の設置や、自宅玄関のライト点灯を呼びかけるなど、地域全体を明るくすることが犯罪防止に効果的
- 街の入口、神社等の美化活動を行い、「きれいなまち」にすれば犯罪は起こりにくくなる
- のぼり旗が風に吹かれて上がるのを防ぐためのアイデアとして、旗の下にカーテンフックをひっかけるという方法がある

座談会 in桑名 (平成29年7月19日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成29年7月19日
13:30～16:00

【場 所】 県桑名庁舎

【参加者】 計45名

- 自主防犯団体：14団体(19名)
- 企業・金融機関：5団体(6名)
- 桑名市、桑名警察署、桑名地域生活安全協会、桑名地区交通安全協会、県

【グループワーク】

3班(A班～C班)に分かれて、次の順で話し合い、発表を行った。

- ①地域の現状と課題は？
- ②今、皆さんが既に行っているアクションは？
- ③新たにやるべきアクションは？
- ④そのためには何(手段)が必要？
- ⑤実現可能性は？



座談会 in いなべ (平成29年8月2日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成29年8月2日
14:00～16:30

【場 所】 北勢福祉センター

【参加者】 計34名

- 自主防犯団体：11団体(14名)
- 企業・金融機関：5団体(6名)
- いなべ市、東員町、いなべ警察署、
員弁地区生活安全協会、いなべ地区
交通安全協会、県

【グループワーク】

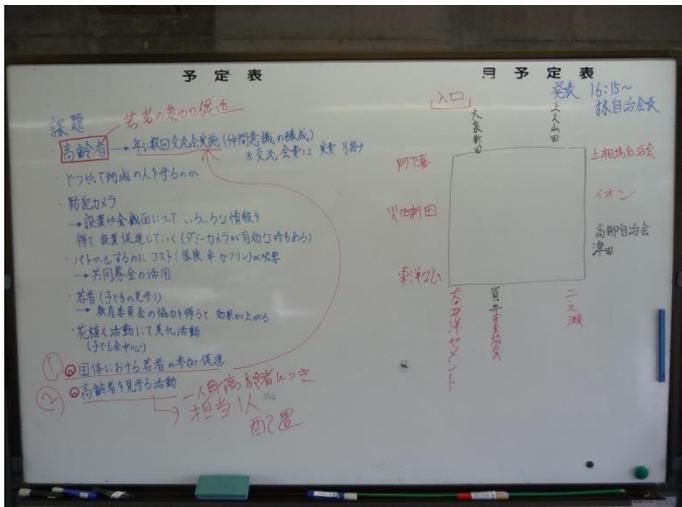
2班(A班～B班)に分かれて、
次の順で話し合い、発表を行った。

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③新たにやるべきと感じたアクション
(テーマ)

「情報共有・連携」、「地域の高齢化」、「地域の防
犯意識の向上」、「防犯活動にかかる費用の問題」、
「その他」



～ 主なご意見 ～



A班

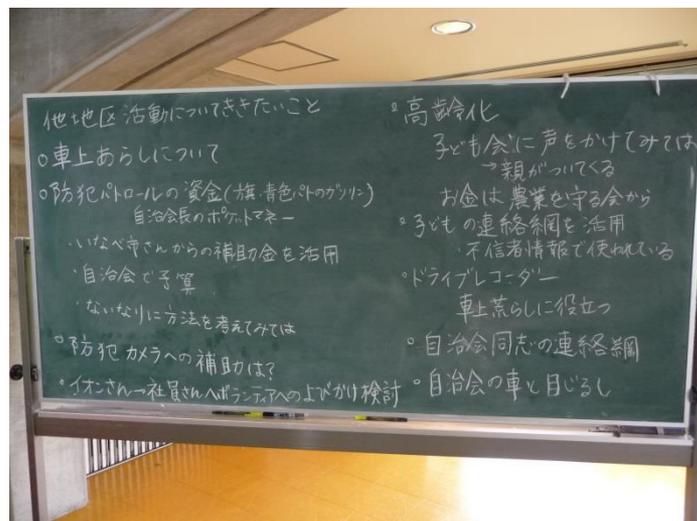
【主なご意見】

- 高齢者だけの家庭には、担当者を一人数ずつ決めるのも有効
- 自主防犯団体への若者の参加促進をするため、定期的な交流会等の開催による仲間意識の醸成も有効
- 防犯カメラにかかる必要な情報(設置方法や自治体からの支援等)を得て、設置促進していくことが必要
- アイデアがあっても、それを支えるメンバーがいないと意味がないので、意欲のある人の育成が必要

B班

【主なご意見】

- 防犯パトロール資金はほとんど自治会費から捻出しており厳しい状況にあるが、やれる範囲で考えていくしかない
- 子供会やPTAなどに声掛けを行い、親御さんも巻き込んで、子どもや地域の意識向上につなげていくことも考えられる
- 自治会同士の横のつながり(連絡網等)をつくるべきである
- イオンでは、地域と一緒に課題解決に向き合いたい



座談会 in伊勢 (平成29年9月19日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成29年9月19日
13:30～16:30

【場 所】 県伊勢庁舎

【参加者】 計35名

- 自主防犯団体：10団体(15名)
- 企業・金融機関：3団体(3名)
- 大学：1団体(2名)
- 伊勢市、玉城町、度会町、南伊勢町、伊勢警察署、伊勢度会地区生活安全協会、伊勢地区交通安全協会、県

【グループワーク】

2班(A班～B班)に分かれて、次の順で話し合い、発表を行った。

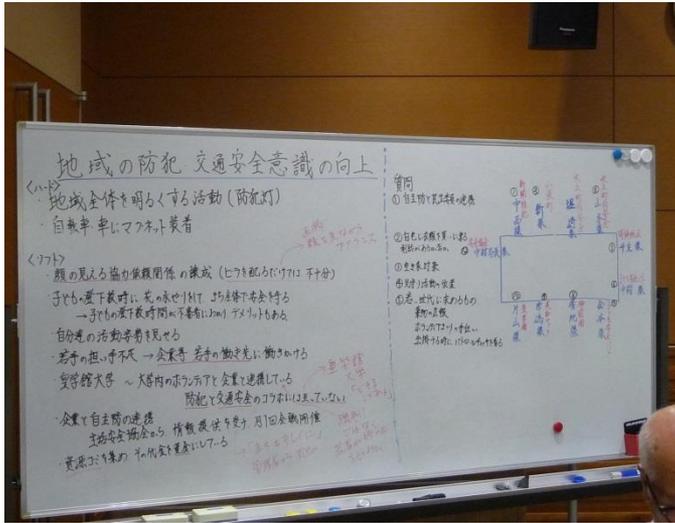
- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③新たにやるべきと感じたアクション
(テーマ)

A班：「地域の防犯・交通安全意識の向上」

B班：「高齢化に伴う対応」



～ 主なご意見 ～



A班

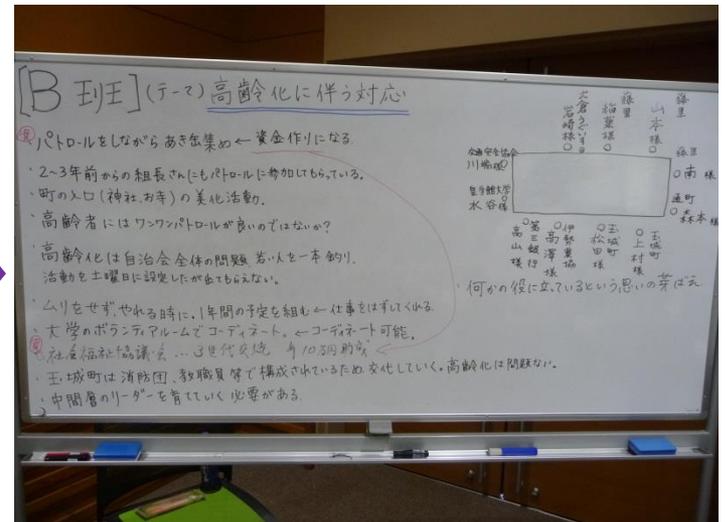
【主なご意見】

- 防犯灯の設置や自宅玄関のライト点灯を呼びかけるなど、地域全体を明るくすることが犯罪防止に効果的
- 若者の意識醸成、参加促進を図るため、強制ではなく若者が興味を引きやすいイベント等の工夫が必要
- 今後、自主防犯団体と皇學館大学(ボランティアチーム)との防犯・交通安全にかかる連携を検討したい
- 活動資金は、自治会からの援助を得ることや、独自に資源ゴミを集めて売却するなどの工夫が必要である

B班

【主なご意見】

- 後継者不足に対応するため、町内の各組長(過去の組長含む)に継続したパトロールをお願いしてはどうか
- (皇學館大学では、あらゆる地域のニーズを学生になくコーディネートが可能なので)、イベント等を通じて学生と一緒にあって地域の気運醸成を図りたい。
- 中間層(40～60歳代前半)の地域リーダー養成が必要
- 街の入口、神社等の美化活動を行い、「きれいなまち」にすれば、犯罪はおこりにくくなる
- ワンワンパトロールは高齢者でも比較的容易にできる



座談会 in四日市西 (平成29年11月27日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成29年11月27日
15:00～17:30

【場 所】 菰野町役場大会議室

【参加者】 計34名

- 自主防犯団体 : 7団体(9名)
- 企業・金融機関: 6団体(8名)
- 学校関係: 1団体(2名)
- 老人クラブ、警察犬訓練士、四日市市、菰野町、四日市西警察署、県 等

【グループワーク】

2班(A班～B班)に分かれて、
次の順で話し合い、発表を行った。

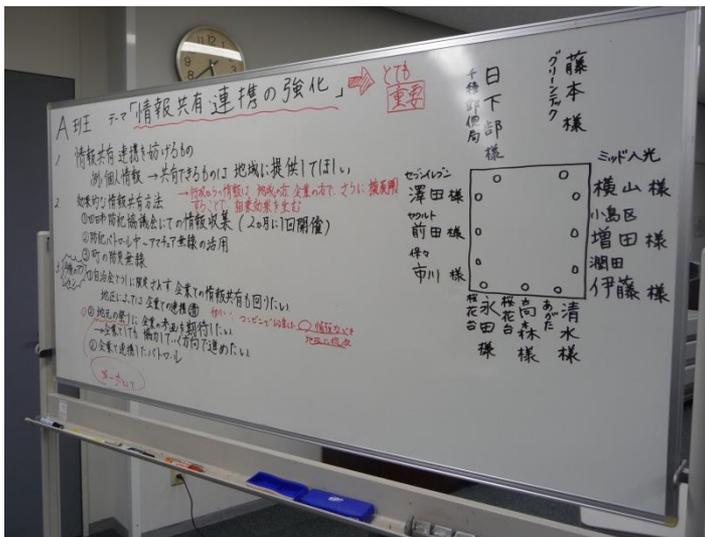
- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③新たにやるべきと感じたアクション
(テーマ)

A班:「情報共有・連携の強化」

B班:「少子高齢化に伴う対応」



～ 主なご意見 ～



A班

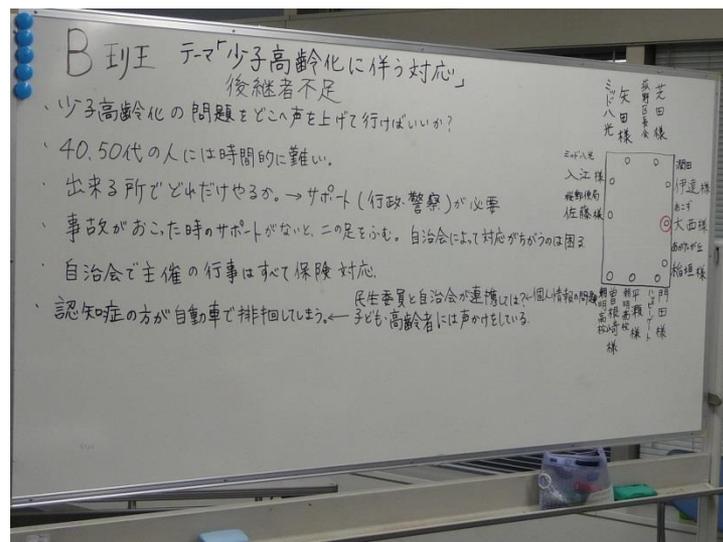
【主なご意見】

- 企業が地域の祭りに参加することを第一歩として、今後住民等とのネットワークの構築につなげていきたい
- 社用車で移動中にパトロールすることは、防犯だけでなく、従業員の交通安全意識の向上等にもつながる
- 高齢者について何か異変に気づいた段階から、徐々に隣の地区まで情報範囲を広げていくことも効果的
- 警察等からの情報を受けるだけでなく、企業や地域間において横展開可能なネットワーク構築が望まれる。

B班

【主なご意見】

- 隣近所同士が分かりあって、仲間意識が芽生えれば、大きな問題は生じにくくなる。
- 認知症高齢者などの徘徊については、民生委員と自治会で連携しての声掛けなどが必要
- 行政も、地域も防犯面だけではなく、防災面も一緒になって活動できた方が良い。
- 家庭において、子どもだけでなく、高齢者にもGPS付きの携帯電話を携帯させることで、行方不明となるリスクなども軽減されるのではないかと



座談会 in四日市北・南 (平成30年5月23日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年5月23日
13:30～16:00

【場 所】 四日市庁舎 第22会議室

【参加者】 計44名

- 自主防犯団体等 : 16団体(18名)
- 企業・金融機関: 5団体(6名)
- 若者: 1団体(2名)
- 四日市市、川越町、朝日町、警察署
(四日市北・南)、地区防犯協会、
地区交通安全協会、県

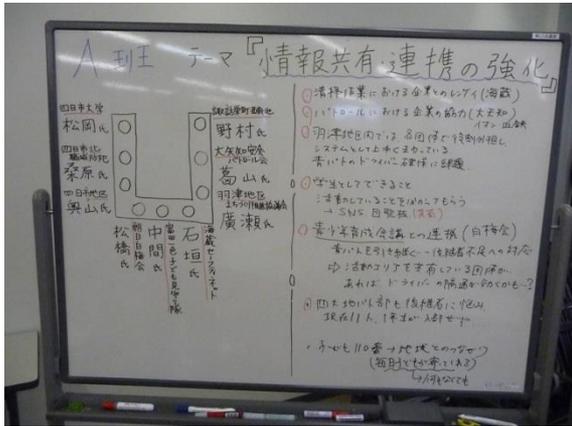
【グループワーク】

3班(A班～C班)に分かれて、
次の順で話し合い、発表を行った。

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③新たにやるべきと感じたアクション
(テーマ)
A班:「情報共有・連携の強化」
B班:「地域の防犯・交通安全意識の向上」
C班:「高齢化に伴う対応」



～ 主なご意見 ～



A班

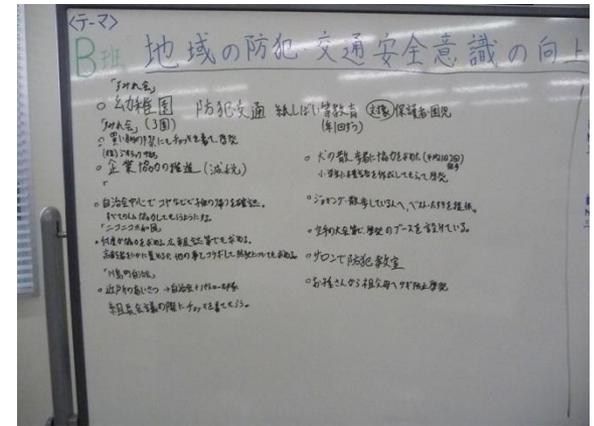
【主なご意見】

- 青パトを運行する団体と活動エリアを共有したい。
- 若者(大学生)としては、卒業後も、地域のお手伝いをしたい。
- 子ども110番の家に、子ども達が気軽に立ち寄れるようにして、地域とのつながりをつくることも大切。

B班

【主なご意見】

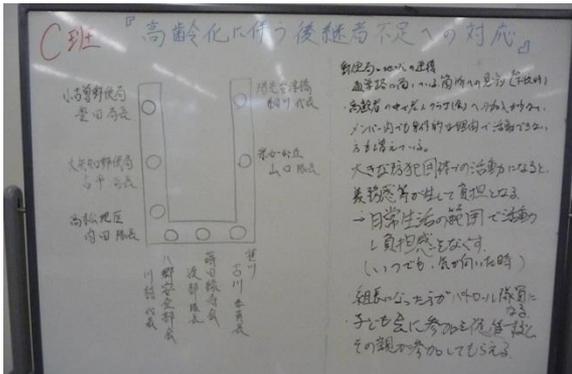
- 危険箇所の点検結果を学校関係者と共有し、問題点等を話し合い、今後のパトロールの改善に繋げる方法がある。
- 孫からの手紙による特殊詐欺被害防止の呼びかけも効果的。
- 下校時に子ども達を通る場所に拠点を作り、毎日、地域ぐるみ(当番制)で、子ども達の安否を確認する方法がある。



C班

【主なご意見】

- 大きな団体では、負担感や義務感が生じやすくなるので、小さなグループで自由な活動のほうが継続しやすい。
- 若い世代の意識醸成のためには、地域の子ども会に声をかけるなど、子どもだけでなく親世代にも働きかけることが近道。



座談会 in津・津南 (平成30年7月4日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年7月4日
14:00～16:30

【場 所】 三重県総合文化センター
生涯学習センター棟中研修室

【参加者】 計37名

- 自主防犯団体等 : 10団体(13名)
- 企業・金融機関: 4団体(4名)
- 学校: 1団体(2名)
- 津市、警察署、地区防犯協会、
地区交通安全協会、県 等

【グループワーク】

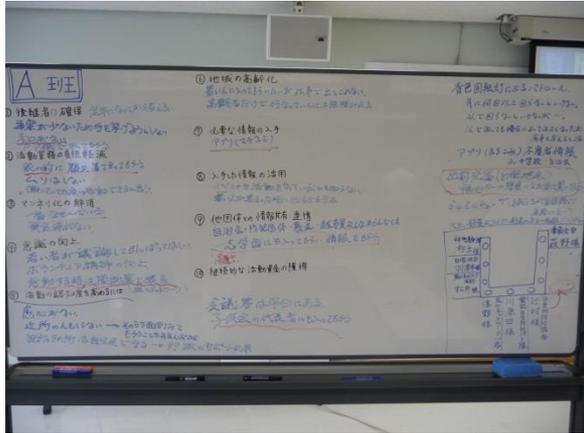
3班(A班～C班)に分かれて、

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③意見交換等
(テーマ)

後継者の確保、活動業務の負担軽減、
マンネリ化の解消、意識の向上、活動の認
知度向上、地域の高齢化、必要な情報の
入手・活用、他団体との情報共有・連携 等



～ 主なご意見 ～



A班

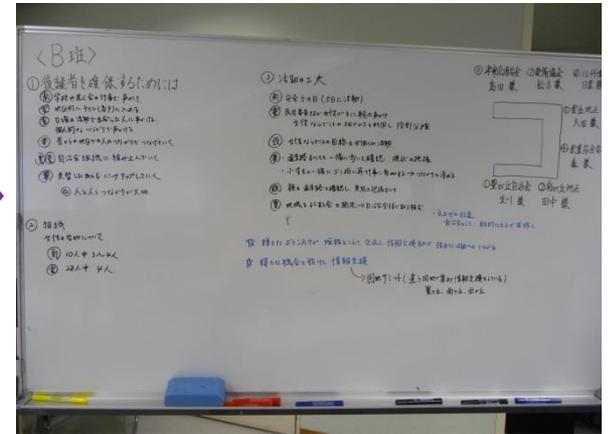
【主なご意見】

- 団体名入りの大きな横断幕を掲げて活動することで、地域の認知度を高めることができる。
- 学校等からの不審者情報等を発信可能なアプリ(まちこみ)は、連絡網作成不要で、伝達スピードが速く、有効なツールである。
- 他団体との交流の場があれば自身の団体の活動改善に繋がる。

B班

【主なご意見】

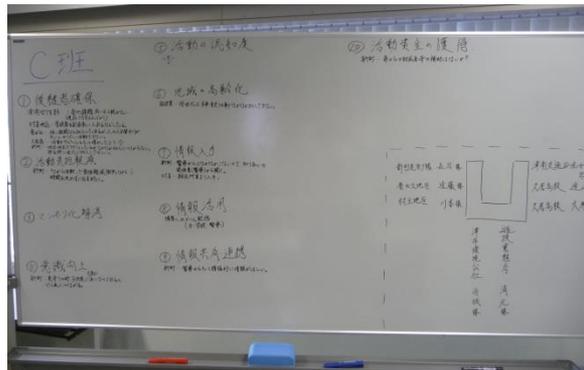
- 女性参加者を増やすことで、女性の視点からのアドバイスや、女性ならではの強みを生かした役割分担が可能となる。
- 子ども達と一緒に通学路点検等を行うと子どもとの絆が深まる。
- 他団体との情報共有・交換の場として「団地サミット」を開催し、自身の団体に足りない部分を他団体から吸収できる。



C班

【主なご意見】

- 活動時間を決めず、ながら活動を促すことが効果的。
- 各施設へのポスター掲示等、大々的にPRすることが、後継者不足解消や、活動の認知度向上につながるのではないかと。
- 見守りで立っている人達のために、学校の休校情報等がタイムリーに届くような仕組みが必要ではないかと。



座談会 in 鈴鹿・亀山 (平成30年8月8日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年8月8日
13:30～16:00

【場 所】 三重県鈴鹿庁舎
4階 第46会議室

【参加者】 計42名

- 自主防犯団体等 : 17団体(17名)
- 企業・金融機関: 6団体(6名)
- 防災関係: 1団体(1名)
- 鈴鹿市、亀山市、警察署、地区防犯協会、地区交通安全協会、県 等

【グループワーク】

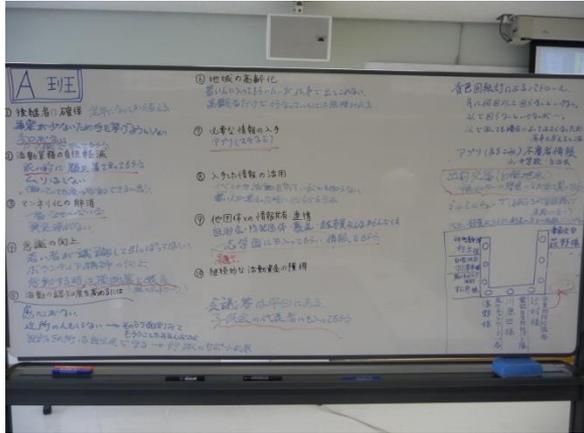
3班(A班～C班)に分かれて、

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③意見交換等
(テーマ)

後継者の確保、活動業務の負担軽減、
マンネリ化の解消、意識の向上、活動の認知度向上、地域の高齢化、必要な情報の入手・活用、他団体との情報共有・連携 等



～ 主なご意見 ～



A班

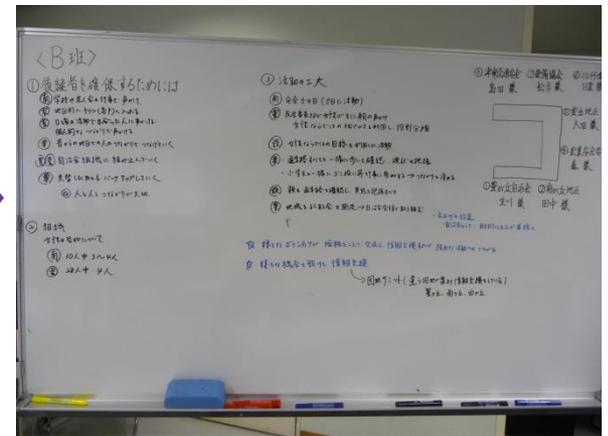
【主なご意見】

- 地域の安全安心に地道に取り組む企業に対する表彰を行う事が従業員の意識向上にも効果的。
- 文化の違いを理解し、対話を深めながら、外国人と一緒に地道な見守り活動を行っている。
- のぼり旗が吹き上がらないようカーテンフックで支えてはどうか。

B班

【主なご意見】

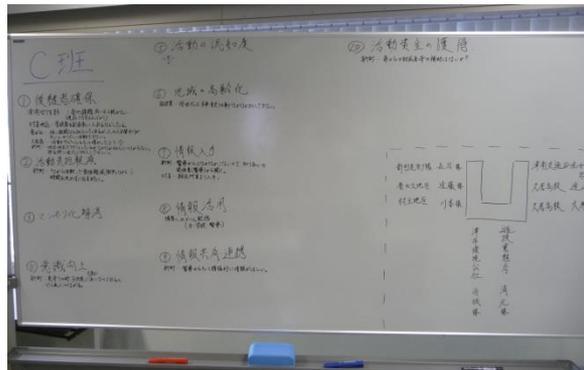
- 防災と防犯はセットで考えるべき。
- 健常者だけではなく、障がい者のための防災・防犯も一緒に考えた方が良い。
- マンネリ化の解消、後継者の確保、地域の高齢化と向き合う方法は全て繋がっており、一緒に考えるべき。



C班

【主なご意見】

- 自転車マナーが悪いので、学校と警察の連携強化が必要。
- 活動の活性化のため、拍子木を使って活動している。
- 活動資金を確保するため、黄色いレシートキャンペーンを行っている。



座談会 in伊賀・名張 (平成30年9月13日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年9月13日
13:30～16:00

【場 所】 伊賀市文化会館
多目的室

【参加者】 計41名

- 自主防犯団体等 : 14団体(17名)
- 企業・金融機関: 7団体(7名)
- 伊賀市、名張市、警察署、地区防犯協会、地区交通安全協会、県 等

【グループワーク】

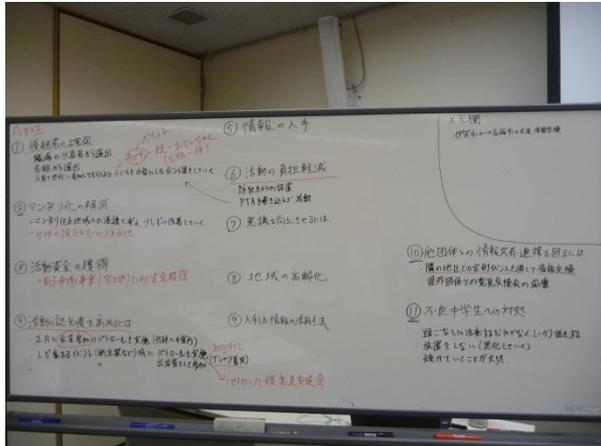
3班(A班～C班)に分かれて、

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③意見交換等
(テーマ)

後継者の確保、活動業務の負担軽減、
マンネリ化の解消、意識の向上、活動の認
知度向上、地域の高齢化、必要な情報の
入手・活用、他団体との情報共有・連携 等



～ 主なご意見 ～



A班

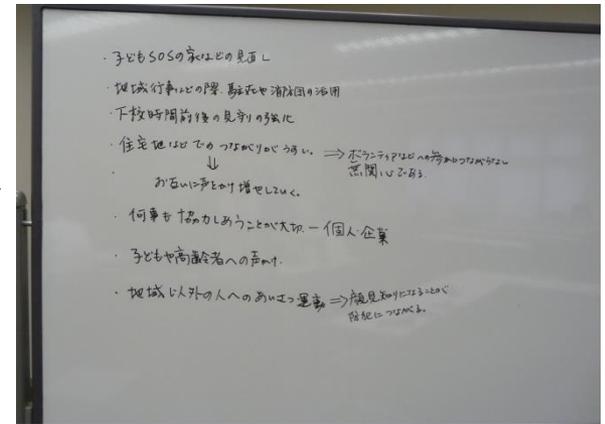
【主なご意見】

- 子育て世代の参加を促すため、PTAも上手く巻き込みながら、子どもの興味を引くイベント等を企画してはどうか。
- 祭りで出店し、目立つオリジナルTシャツを着てPRしてはどうか。
- 県外の団体の現地視察や意見交換会を開催し、活動事例やアイデアを参考にしたり、交流の幅を広げてはどうか。

B班

【主なご意見】

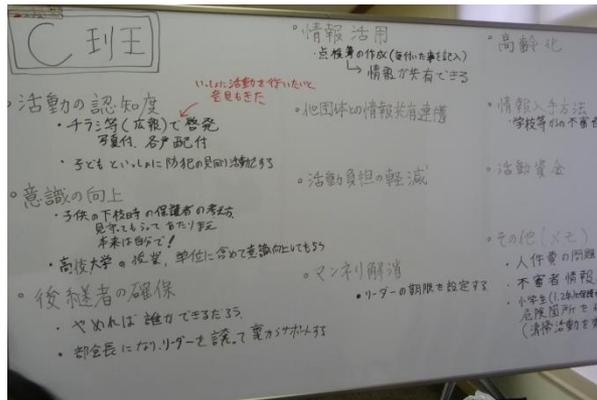
- 地域以外の人に対するあいさつ運動を実施することで、顔見知りが増え、防犯にもつながるのではないか。
- いざという時の備えに、民生委員などと協力し、地域で防犯訓練などを実施してはどうか。
- 特に、子ども達の下校時間帯前後の見守り強化が必要。



C班

【主なご意見】

- 活動の様子を載せたチラシ等を各戸配布し、一緒に活動を行いたいと思えるきっかけを作ってはどうか。
- 団体の代表者は、退任後も裏方としてサポートしてはどうか。
- 団体のリーダーの任期を設定し、メリハリをつけてはどうか。



座談会 in松阪・大台 (平成30年11月7日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年11月7日
13:30～16:00

【場 所】 県松阪庁舎
6階 大会議室

【参加者】 計41名

- 自主防犯団体等 : 16団体(21名)
- 企業・金融機関: 3団体(3名)
- その他団体(病院等): 3団体(3名)
- 松阪市、多気町、明和町、大台町、大紀町、警察署、地区防犯協会、地区交通安全協会、県 等

【グループワーク】

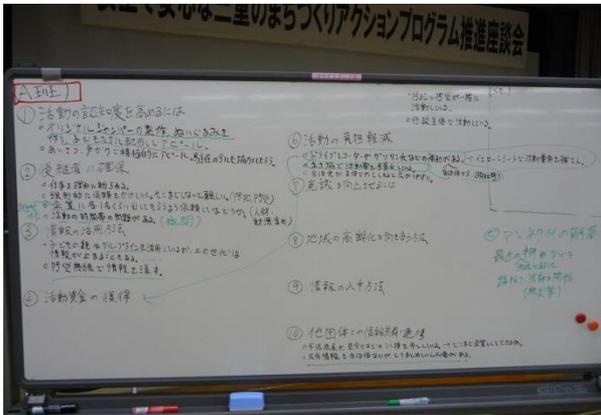
3班(A班～C班)に分かれて、

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③意見交換等
(テーマ)

後継者の確保、活動業務の負担軽減、マンネリ化の解消、意識の向上、活動の認知度向上、地域の高齢化、必要な情報の入手・活用、他団体との情報共有・連携 等



～ 主なご意見 ～



A班

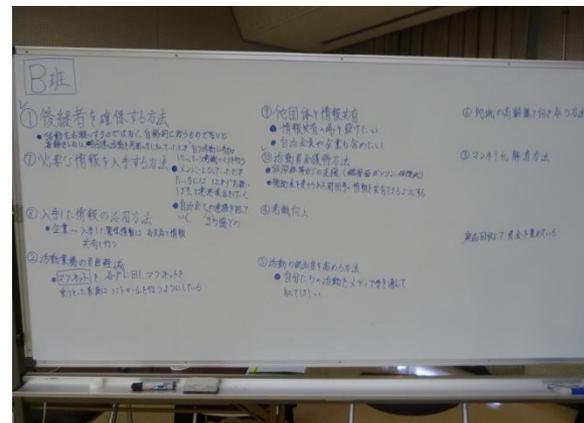
【主なご意見】

- 団体オリジナルのぬいぐるみやジャンパーを子ども達に配布することで、親の関心も高めることができる。
- 地域から企業に1名ずつ地域活動への協力を要請してはどうか。
- 県内外の犯罪情勢や、自身の地域で起こった事件・事案等をきっかけに、新たな活動を開始することが必要。

B班

【主なご意見】

- 防犯マグネットを各戸に回覧し、マグネットが回ってきた家庭がパトロールを行うことで、負担が集中しなくなる。
- 60歳以上で活動意欲のある人に新たに参加いただけるよう、「協力してください」と書かれた大きな札をもって巡回している。
- さまざまな角度から情報を得て活動に活かした方が良い。



C班

【主なご意見】

- 毎回の活動阿時間を同じにせず、変化をもたせてパトロールなどを実施したほうが、予測不可能で、犯罪企図者が嫌がる。
- さまざまな世代との交流の場を設けることが重要。
- 消防団と交流を重ね後継者不足の解消につなげられないか。



座談会 in鳥羽 (平成30年12月11日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年12月11日
13:30～16:00

【場 所】 県志摩庁舎
2階 大会議室

【参加者】 計30名

- 自主防犯団体等 : 2団体(5名)
- 企業・金融機関: 3団体(3名)
- その他(高校): 2団体(10名)
- 鳥羽市、志摩市、警察署、鳥羽志摩防犯協会、地区交通安全協会、県 等

【グループワーク】

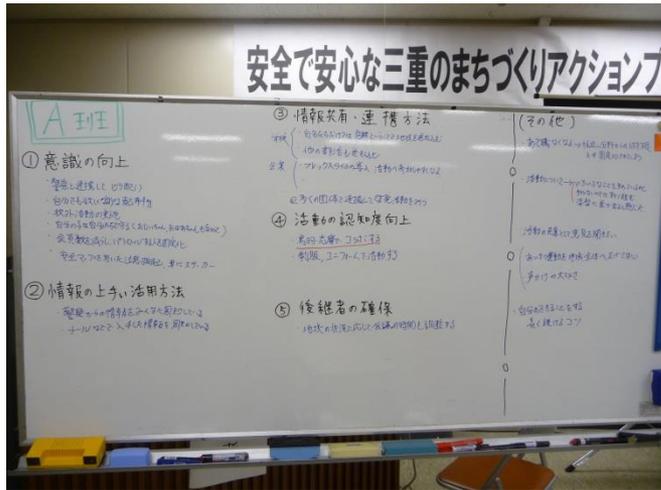
3班(A班～C班)に分かれて、

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③意見交換等
(テーマ)

後継者の確保、活動業務の負担軽減、
マンネリ化の解消、意識の向上、活動の認
知度向上、地域の高齢化、必要な情報の
入手・活用、他団体との情報共有・連携 等



～ 主なご意見 ～



A班

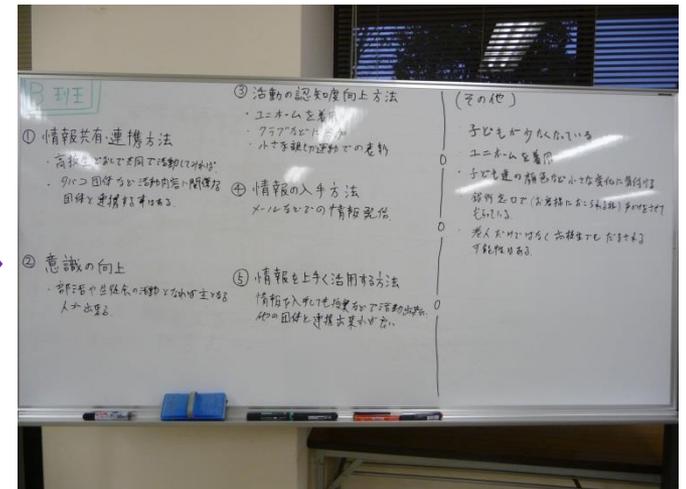
【主なご意見】

- 企業における従業員教育においても、地域で活動いただいているボランティア団体のことや、地域の課題や犯罪情勢等についてしっかりと伝えていくべきだと感じる。
- 例えば、違う高校同士でコラボして、パトロール活動やイベントが実施できれば、より多くの若い力が集まり、インパクトもあり、地域に活気も出るのではないかな。
- 従業員が地域の活動に参加しやすくするための環境づくりとして、企業でズレ勤務やフレックスタイムを導入するなどして、企業側の理解や協力体制を充実させてはどうか。

B班

【主なご意見】

- 高校生だけで活動するのは難しい面があるが、未成年者の喫煙防止キャンペーンの際には、たばこ関連団体と連携するなど、活動内容にかかわる団体と一緒に啓発活動を実施することが効果的。
- 高校生のボランティア活動が、部活や生徒会の活動等と同様に、明確に位置づけてもらえれば、活動の意義を感じやすくなり、今以上に注目され、メンバーの確保や認知度の向上にもつながるのではないかな。



座談会 in尾鷲・熊野・紀宝 (平成31年1月10日)

～ 開催結果の概要 ～



【日 時】 平成30年1月10日
13:30～16:00

【場 所】 県熊野庁舎
5階 大会議室

【参加者】 計38名

- 自主防犯団体等 : 11団体(16名)
- 企業・金融機関: 4団体(4名)
- 尾鷲市、紀北町、熊野市、御浜町、
紀宝町、警察署、地区防犯協会、
地区交通安全協会、県 等

【グループワーク】

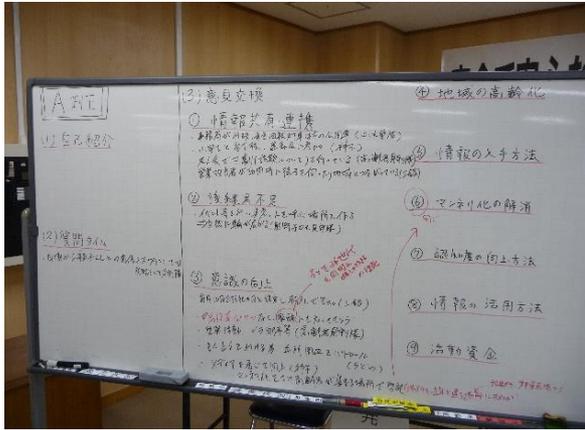
3班(A班～C班)に分かれて、

- ①自己紹介(各々の活動紹介等)
- ②質問タイム
- ③意見交換等
(テーマ)

後継者の確保、活動業務の負担軽減、
マンネリ化の解消、意識の向上、活動の認
知度向上、地域の高齢化、必要な情報の
入手・活用、他団体との情報共有・連携 等



～ 主なご意見 ～



A班

【主なご意見】

- 「防犯活動しよう」と声をかけるのではなく、趣味や特技を持つ方が集まる場を設け、その中で絆をつくり、自然と防犯活動等につながっていくほうが持続しやすい。
- 啓発活動等の場所を店舗などに限定せず、その他の人が集まりやすい場所も視野に入れたほうがマンネリ化解消につながる。

B班

【主なご意見】

- 高齢者等が地域から孤立しないためにも、活動の種類を増やすなど、多くの人に参加できるように工夫したほうが良い。
- 老人会の活動も重要なので、人手不足を解消するためにも、老人会という名称自体を「知恵袋会」などと改称して、良いイメージをつくっていったほうが良い。



C班

【主なご意見】

- 市町や地域によって、犯罪傾向や活動の特徴も違うので、地域を越えて、各主体が意見交換を行う場があれば良い。
- 昔と比べ、夜は家に居る子どもが多くなったので、パトロールの時間帯・頻度も時代の変化とともに見直していくべき。

